

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び令和2年度地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

松阪市地域公共交通協議会 （松阪市）

平成17年 8月 1日設置

令和 元年 9月19日 第二次松阪市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：平成31年4月～令和5年3月）

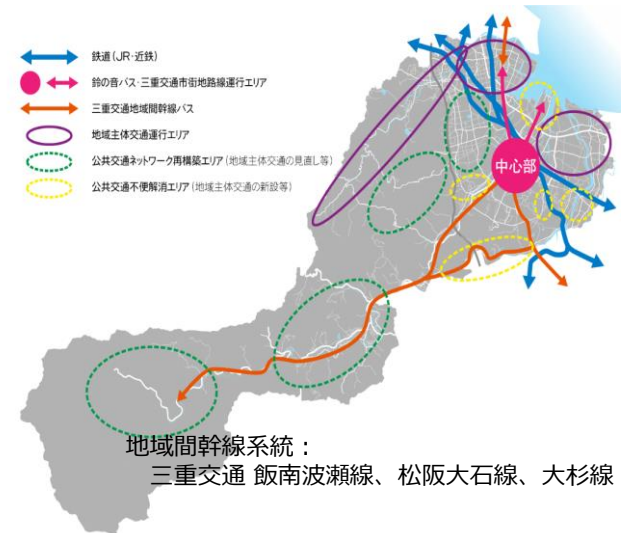
令和 2年 6月19日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 4年 1月14日 令和3年度評価結果送付

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
地域が主体となった運行形態の検討や企業に対する運行に対する協賛の募集など、地域ぐるみでバスの利用促進に取り組んでいる。	引き続き、企業や地域へ協賛募集活動を継続するとともに、地域住民と利用促進に努めた。	地域や企業誘致担当部局と連携し、協賛募集の取組を継続していく。
今後も地域公共交通網形成計画に位置付けられた事業を着実に実施するとともに、地域と協働した公共交通の維持確保に取り組まれることを引き続き期待します。	利用促進のきっかけづくりとして、鈴の音バスをはじめ市が運行するコミュニティバスに系統番号を付与したほか、運行協議会を対面で開催することは困難であったが、自治会長など地域住民と情報交換を行った。	引き続き地域公共交通網形成計画に基づき事業を実施していくとともに、公共交通を利用できない住民などの移動手段やサービスについて検討していく。
コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待します。	運行車両内に感染拡大防止に関わるポスターやメッセージを掲示し、換気、清掃、消毒、運転手の健康管理の徹底に取り組んでいることを周知することで、利用者が安心して利用できるよう努めた。	今後も公共交通機関では利用者の安全、安心のために感染拡大防止に取り組んでいることを周知していく。

松阪市の特性・概要、取組

- ・ 総面積は623.58km²（東西50km、南北37km）
- ・ 市域の8割は耕地と山林。
- ・ 人口は161,520人（R3.4.1）。
- ・ 高齢化の進展が顕著
（特に飯南、飯高管内の高齢化率が高く、人口減少も進んでいる）。
- ・ 松阪市では、交通空白地をカバーするため、地域の協働、負担（協賛金）を前提にコミュニティ交通を導入している。



10年後の将来像（総合計画）

ここに住んで良かった...みんな大好き松阪市

【第二次松阪市地域公共交通網形成計画】 令和元年度～令和4年度の4年間

■ 基本方針 市民・来訪者の「おでかけ」をより便利にする
公共交通網をみんなで「つくり」「使う」!!

- 目標1…市民の生活実態を考慮した利便性の高い公共交通網づくり
- 目標2…みんなが集う場所を交通結節点としたつながりのある公共交通網づくり
- 目標3…わかりやすく、利用しやすいと思ってもらえるような公共交通網づくり
- 目標4…将来にわたって持続可能な公共交通網の運営・運行体制づくり

令和2年度の主な取組

系統番号の付与

鈴の音バスをはじめ市内で運行しているコミュニティ交通に系統番号を付与

鈴の音バス

- 市街地循環線 右回り：M1、左回り：M2 幸中央線：M3、三雲松阪線：M4、大口線：M5
- 嬉野線：N1、三雲線：N2、飯南線：I3、飯高線：I4、飯福田・柚原線：U5、与原・深長線：U6、黒部東線：M11、機殿朝見線：M12



バス停名の統一

同じ設置場所にもかかわらず、異なる停留所の名称を統一

- ・鈴の音バス「ベルタウン」と三重交通「日野町」の停留所名を「日野町（ベルタウン）」に変更。
- ・嬉野地区コミュニティバス「一志」停留所名を阿坂小野線の「嬉野一志町」に統一。

広報誌で特集記事を掲載

バスが身近な移動手段であることを知ってもらうと、広報まつさかで、バスの乗り方などを紹介



Googleマップの検索が可能に

コミュニティバスの運行についてGoogleマップ検索が対応可能となり、乗継案内等の利便性が向上。



令和2年度の主な取組

コロナ対策

定期的な車内の消毒や運転手の健康管理など、コロナウイルス感染症予防と啓発を実施。



地域住民によるバス停整備

利用者のバス待ち抵抗の緩和や良好な待合環境を整えるため、地域住民自らが、ベンチや手すりの設置、舗装などによる停留所の環境整備。



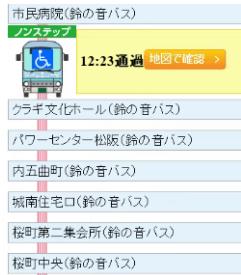
嬉野平生町自治会



新屋敷自治会

バスロケーションシステムの導入

運行状況を確認し、安心して路線バスを利用してもらおうとバスロケを鈴の音バス4路線に導入。



バス停の新設（幸中央線）

平成31年に運行を開始した鈴の音バス幸中央線で、バス停間に距離があり、周辺地域住民からのニーズが大きかった地域にバス停を新設。



鈴の音バス幸中央線
五反田町1丁目停留所新設

評価の基準

評価指標	基準数値	判定結果
住民1人あたりの公共交通年間利用回数	平成29年度実績 8.0回/人	基準値以上で○、未満で×
沿線60歳以上人口100人あたりの1日の利用者数	路線別に目標値を設定。目標値は、実績に応じて各路線で設定。	各路線で設定した目標値以上であれば○、未満で×
地域負担率	路線別に目標値設定。目標値は、実績に応じて各路線で設定。 年間運行経費に占め運賃収入等の割合	各路線で設定した目標値以上であれば○、未満で×

評価の結果

すべての評価指標、各路線別評価において判定結果は「×」。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度のコミュニティ交通利用者数は、前年度70%に落ち込み、企業協賛金が減少したことにより、利用者数だけでなく、地域負担率も減少した。

（１）住民１人あたりの公共交通年間利用回数　〔回〕		
目標値	実績値	
	令和元年度	令和２年度
8.0	7.95	6.23

青字：フィーダー補助路線

路　線　名	(2) 沿線60歳以上人口100人あたりの1日利用者数〔人〕			(3) 地域負担率〔％〕		
	目標値	実績値		目標値	実績値	
		令和元年度	令和２年度		令和元年度	令和２年度
鈴の音バス「市街地循環線」	2.3	1.8	1.0	40.0	39.9	28.1
鈴の音バス「大口線」	2.2	1.6	1.1	14.0	12.8	10.0
鈴の音バス「三雲松阪線」	4.0	4.8	3.0	18.0	17.6	12.7
鈴の音バス「幸中央線」	2.2	1.7	1.1	30.0	11.0	8.5
黒部・東地区コミュニティバス	1.6	1.2	0.8	23.0	19.8	18.6
機殿・朝見地区コミュニティバス	1.5	1.6	1.1	14.0	14.0	10.9
飯南地区コミュニティバス	1.0	0.7	0.6	14.0	12.4	13.2
飯高地区コミュニティバス	1.5	1.0	0.7	10.0	8.1	6.9
宇気郷地区コミュニティバス「与原・深長線」	0.5	0.3	0.3	－	－	－
宇気郷地区コミュニティバス「飯福田・柚原線」	0.1	0.0	0.0	－	－	－
嬉野地区コミュニティバス	2.2	1.9	1.2	20.0	15.0	13.0
三雲地区コミュニティバス	1.4	1.5	0.8	25.0	24.4	21.5
松尾地区コミュニティ交通	0.7	－	0.6	40.0	－	19.7
虹が丘町デマンドタクシー	1.0	0.2	0.2	－	－	－

(課題)

コミュニティ交通の導入により、公共交通がカバーしている地域は拡大しているが、カバーされていない地域が点在している。

公共交通利用者数が減少する一方で、移動手段の確保など公共交通に関するニーズが大きくなっている。



(今後の取組)

今年度、実施している65歳以上の1万人を対象とした移動手段に関するアンケートで、住民協議会単位で住民がどのように移動し、どんなニーズがあるのかを整理する。

行政サービスとしての移動手段の提供のあり方を検討し、人口減少、少子高齢化の進展が顕著な飯高管内の移動手段を再編する。市役所内の福祉部や教育委員会、観光部門などと連携して対応していく。

令和3・4年度取組

- 超高齢社会交通弱者対策の調査・検討
 - 飯高管内の移動手段の再編
 - 地域公共交通計画の策定
- ・ 今年度、65歳以上の住民を対象に無作為抽出した1万人に移動手段に関するアンケート調査を実施。
 - ・ 飯高管内においては、高校生以上全員（約3千人）を対象に移動手段に関するアンケート調査を実施。
 - ・ 飯高管内で、運転免許証や自動車を保有していない住民や、路線バスやコミュニティバスを利用できない住民に集まっていただき、意見交換やワークショップを開催する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 20日

協議会名: 松阪市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維 持改善計画に反映させた上で事業を実施し たかを記載】	A・B・C 評価	【計画に基づく事業が適 切に実施されたかを記 載。計画どおり実施され なかった場合には、理由 等記載】	A・B・C 評価
三重交通株式会社	鈴の音バス市街地循環線 ・右回り ・左回り	・企業や地域住民への協賛金募集 ・系統番号の付与 (右回り:M1、左回り:M2) ・「ペルタウン」バス停の名称を「日野町(ペル タウン)」に変更し、三重交通路線バスと統一	A 計画どおり事業は適切に 実施されている。	C [効果指標:60歳以上人口100人当り1日利用者数] 目標:2.3人 実績:1.0人 ・利用者数48,197人(365日) ・沿線60歳以上人口12,765人 (公共交通の状況により地域ごとで補正(平成3年4月1 日現在)) [コスト指標:地域負担率【(運賃+協賛金)ノ運行経費】] 目標:40% 実績:28.3% (運賃6,636千円、協賛金6,278千円、経費45,603千円) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数及び 企業協賛金が減少した。また、運行経費、及び沿線60歳 以上人口が増加した。	地域ぐるみで運行維持を図るため、運行開始当時から 継続している、企業や地域住民から協賛募集を実施す る。 乗り継ぎによる利用やバスロケーションシステムの活 用などをPRし、利用促進に取り組んでいく。 超高齢社会を迎え、地域の移動ニーズを把握するため に、高齢者に対するアンケートやOD調査を実施する。
三重交通株式会社	嬉野地区コミュニティバス 「嬉野おおきんバス」 ・月水金:上小川～中川駅東口 ・火木土:上小川～嬉野地域振興局	・地域が主体となり、住民のほか地元事業者 に対しても協賛の募集 ・地域組織による回数券購入の助成 ・地域住民で構成される運行協議会を定期的 に開催 ・系統番号の付与(N1) ・「一志」バス停の名称を「嬉野一志町」に変 更し、阿坂小野線と統一	A 計画どおり事業は適切に 実施されている。	C [効果指標:60歳以上人口100人当り1日利用者数] 目標:2.2人 実績:1.2人 ・利用者数5,756人(293日) ・沿線60歳以上人口1,591人 (平成3年4月1日現在) [コスト指標:地域負担率【(運賃+協賛金)ノ運行経費】] 目標:20% 実績:12.6% (運賃601千円、協賛金1,450千円、経費16,317千円) 令和元年度の利用者数は、前年度より増加していた が、新型コロナウイルス感染症の影響で減少した。 また、沿線60歳以上人口、及び運行経費が増加した。	以前は路線バスが運行されいたが、2つの小学校が廃 校になるなど、特に人口減少が進む嬉野地区の中山間 地域において、コミュニティ交通は重要な移動手段で、 高齢者の移動手段を確保するため、コミュニティバス乗 車回数券の購入補助に取り組んでいる住民自治協議会 がある。今後も引き続き、運行協議会主体による、地域 ぐるみの取組を進めていく。 地域主体の地域住民や地元企業への協賛金募集に 継続して取り組む。 超高齢社会を迎え、地域の移動ニーズを把握するため に、高齢者に対するアンケートやOD調査を実施する。
三重交通株式会社	三雲地区コミュニティバス 「たけちゃんハートバス」 五主～ココカラファイン嬉野店中川駅北	・地域が主体となり、住民のほか地元事業者 に対しても協賛の募集 ・「たけちゃんハートバス便り」を発行して情報 発信 ・地域住民で構成される運行協議会を定期的 に開催 ・系統番号の付与(N2)	A 計画どおり事業は適切に 実施されている。	C [効果指標:60歳以上人口100人当り1日利用者数] 目標:1.4人 実績:0.8人 ・利用者数3,886人(243日) ・沿線60歳以上人口2,103人 (平成3年4月1日現在) [コスト指標:地域負担率【(運賃+協賛金)ノ運行経費】] 目標:25.0% 実績:22.9% (運賃653千円、協賛金1,304千円、経費8,564千円) 平成27年度以降、利用者数は増加傾向であったが、新 型コロナウイルス感染症の影響で減少した。また、沿線 60歳以上人口が増加した。	自治会地内に停留所がなかった東小野江自治会に停 留所を新設し、鈴の音バス三雲松阪線と三重交通津三 雲線のバス停に設定されている「天白(回転場)」へ乗り 入れる予定で十分な住民周知とともに利用促進を図る。 地域主体の地域住民や地元企業への協賛金募集を継 続し、今後も引き続き、協議会主体による、地域ぐるみ の取組を進めていく。 超高齢社会を迎え、地域の移動ニーズを把握するため に、高齢者に対するアンケートやOD調査を実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 4年 1月 20日

協議会名：	松阪市地域公共交通協議会
-------	--------------

評価対象事業名：	地域公共交通確保維持事業（陸上交通における地域内フィーダー系統）
----------	----------------------------------

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	松阪市は広大な市域を有し、平野部から山間部まで変化に富んだ地形が広がっている。公共交通として鉄道・バスによって多くをカバーしているものの、一部ではタクシー以外のおでかけ手段の地域も存在している。 「松阪市総合計画」の10年後の将来像である「ここに住んでよかった・・・みんな大好き松阪市」を目指し、以下の基本方針と目標を掲げて公共交通施策に取り組んでいく。 【基本方針】 市民・来訪者の「おでかけ」をより便利にする公共交通網をみんなで「つくり」「使う」!! 【目 標】 1. 市民の生活実態を考慮した利便性の高い公共交通網づくり 2. みんなが集う場所を交通結節点としたつながりのある公共交通網づくり 3. わかりやすく、利用しやすいと思ってもらえるような公共交通網づくり 4. 将来にわたって持続可能な公共交通網の運営・運行体制づくり
-----------------------------	---

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

松阪市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和2年4月～3年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
住民1人あたりの公共交通年間利用回数 8.0回/人	バスロケーションシステムの導入や系統番号の付与など利用促進策を実施。	路線別の乗降データ及びバス事業者の提供資料	6.23回/人 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数減少、人口減少により前年度と比較して低くなった。 平成30年度：7.96回/人 令和元年度：7.95回/人	・引き続き、既存のコミュニティ交通の運行を継続する。一部、ルート変更する。 ・感染症拡大防止対策の徹底と周知活動により利用回帰を推進する。 ・コミュニティバスの運行基準を作成する。	・飯高管内の移動手段の再編 ・交通計画の策定（令和3、4年度）
沿線60歳以上人口100人あたりの1日の利用者数（路線別）	・65歳以上を対象とした回数券の販売 ・コミュニティ交通の停留所の追加など	路線別の乗降データ及び住民基本台帳の値を用いて計測	すべての路線で目標を達成できていない。 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数減少に伴い、未達成。 （関連資料あり）	公共交通の利用者が減少する一方で、高齢者など交通弱者の移動手段に関するニーズは高まりを見せていることから、現況、ニーズを把握、整理し、対策について検討する。	・交通弱者対策の調査、研究（令和3、4年度）
地域負担率（路線別）	・沿線地域や企業への協賛依頼活動。 ・地域イベントでのコミュニティ交通の活用依頼など	令和2年度、歳出、歳入データを用いて計測	すべての路線で目標を達成できていない。 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数減少、企業協賛の減少に伴い、未達成。 （関連資料あり）	・沿線地域への協賛活動の継続 ・地元企業への協賛活動の拡充 ・地域イベントでのコミュニティバスの活用促進	各地区コミュニティ交通は沿線地域の各世帯から協賛いただいている。

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。